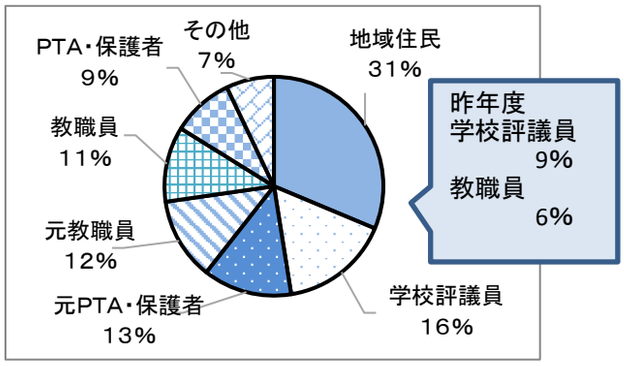
【地域コーディネーター対象調査】

平成29年度奈良県学校・地域パートナーシップ事業にかかる調査結果

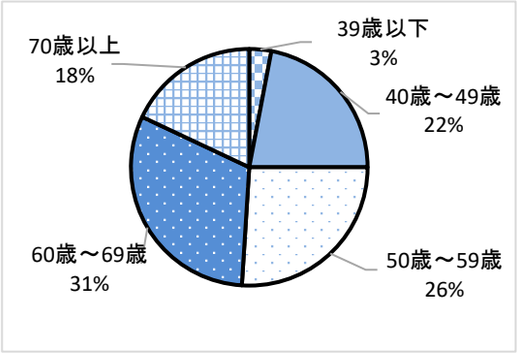
地域コーディネーターについて

地域コーディネーターの現状について

(1)地域コーディネーターの所属について



(2)地域コーディネーターの年齢構成



(3)学校支援ボランティアの人数	157名	（昨年度　126名）
(4)経験年数	4.0年	（昨年度　3.5年）
(5)１か月の平均活動時間数	9.6時間	（昨年度 10.1時間）
(6)１か月の平均学校訪問回数	5.0回	（昨年度　4.3回）

・コーディネーターの立場は、地域住民が多く、次いで学校評議員、元ＰＴＡ・保護者、元教職員、教職員が続く。昨年度と比較すると学校評議員と教職員の割合が上がっている一方で、元ＰＴＡ・保護者、元教職員の割合が減少しています。

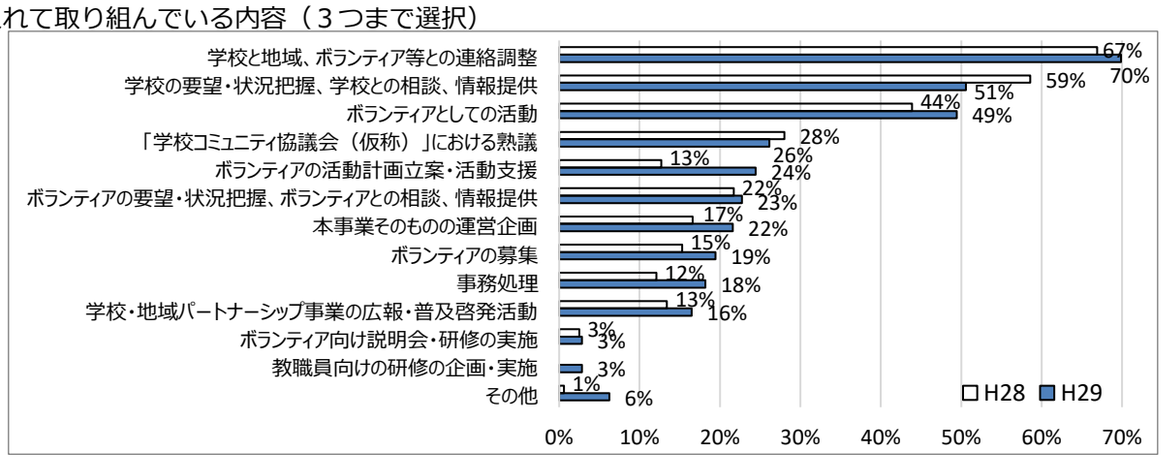
・コーディネーターは、月平均9.6時間の活動を行っており、５回程度学校を訪問しています。（昨年は、月平均10.1時間の活動、4.3回程度学校を訪問）

学校を中心に、多くのコーディネーターやボランティアが募り、人と人のつながりを広げることが大切です。

●コーディネーターの年齢構成は60歳から69歳が一番多く、退職後にこの事業に関わっていただいている方が多くなっています。そのため、市町村教育委員会や各地域、学校において、次世代のコーディネーターの発掘・育成が必要な時期となってきています。

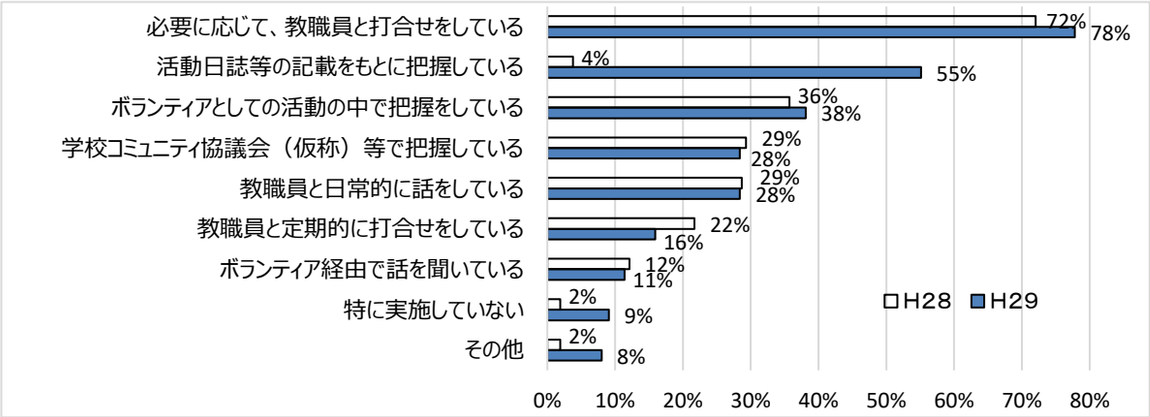
地域コーディネーターの活動について

(1)力を入れて取り組んでいる内容（３つまで選択）



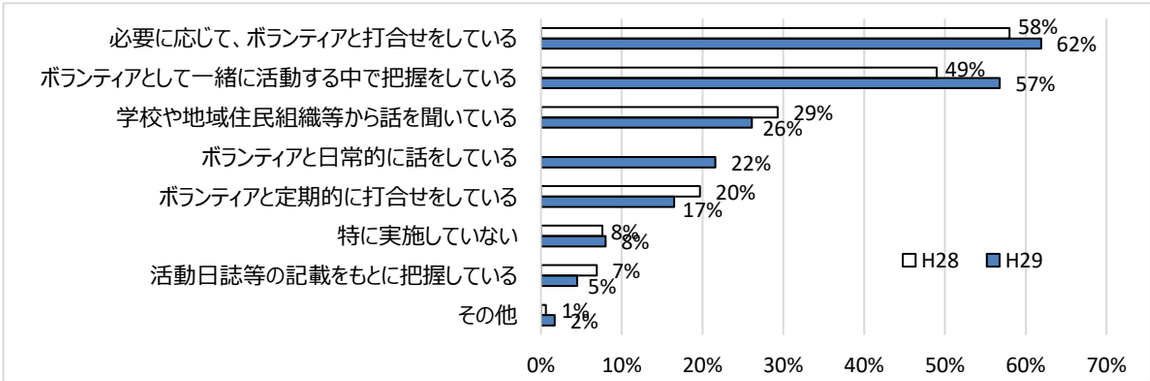
・コーディネーターが力を入れている活動は、自身のボランティア活動だけでなく、①学校と地域・ボランティア等との連絡調整、②学校の要望・状況把握、学校との相談、情報提供の割合が高くなっています。

(2)学校の要望把握の方法（複数回答）



・必要に応じて教職員と打合せをしているコーディネーターの割合が高く、また、活動日誌等の記載をもとに把握している割合が大幅に増加しています。

(3)ボランティアの要望把握の方法（複数回答）



・ボランティアと、必要に応じて打合せをしたり、一緒に活動する中で要望を把握している割合が、他と比べて高くなっています。

コーディネーターとしての役割が認知されてきています

●自らのボランティアとしての活動だけでなく、多くのコーディネーターの方が力を入れている、学校と地域・ボランティアとの間をつなぐことは、基本的かつ重要な役割です。

●コミュニティ協議会及び学校運営協議会の場だけでなく、教職員、ボランティアと日常的に連絡を取り合うことが大切です。

●人と人とのつながりを広げるためにも、ＰＴＡなどへの学校・地域パートナーシップ事業の広報・普及啓発活動を積極的にすすめていただくようお願いします。

その他（地域コーディネーターの意見）

●コーディネーターとしての活動を通して、出会いや体験が子どもたちの心の成長につながることや、地域ぐるみで子どもを育むことの大切さ、それぞれの地域ならではの取組を生み出していく重要性に気づいた。

●様々な学校支援活動の充実にとって、管理職が積極的に地域と良い関係を築いていただいていることなど、校長、教頭、先生方の存在はとても大きいと感じています。

●ボランティアの方々を対象とした研修会、コーディネーターの体験談が交流できる研修会の実施の要望があり、他の地域の取組の交流、その成功例、失敗例を役立てていきたい。

●人材の確保、予算の確保、事業の継続の要望。